

## 令和元年度 第24回 肥後医育振興会医学研究助成金助成者紹介

## 筋強直性ジストロフィー1型の神経変性病態の解明と症状改善薬の開発

熊本大学発生医学研究所 特任助教  
ゲノム神経学分野 朝光 世煌



この度は肥後医育振興会医学研究助成金を賜りまして、誠に有難うございます。関係者の皆様、ご推薦頂きました発生医学研究所ゲノム神経学分野の塩田倫史准教授に深く御礼申し上げます。

私は発生医学研究所のゲノム神経学分野において、学習・記憶などの中枢神経機能における核酸高次構造の役割に着目し、遺伝性神経疾患の病態分子基盤の解明に向けた基礎研究・創薬研究を行っております。

筋強直性ジストロフィー1型(DM1)は、CTGリピート伸長変異に基づく進行性の筋機能低下を引き起こす一方で、深刻な中枢神経変性の病態を呈することが知られていますが、その病態メカニズムは未だ十分に解明されていません。私は、DM1患者由来iPS神経細胞や疾患モデルマウスを用いて、中枢神経変性の病態分子の同定とその機能解明、および新規疾患リピード標的型薬剤による症状改善効果・薬理作用の検討を多角的に行っております。

本研究の遂行によりDM1の病態理解を一気に加速させ、患者さんのQOLや生存率の向上に貢献したいと思っております。

今回の受賞を励みに、より一層本研究を発展できるよう精進して参りたいと思っております。この度は誠に有難うございました。

## 慢性期脳卒中片麻痺患者に対する個別運動療法による歩様変化の検証

脳硬塞リハビリテーションセンター熊本 研究員 吉岡 潔志



本邦では脳卒中に対するリハビリテーションの保険診療期間は180日と定められております。期間終了後、高齢患者は介護保険施設が利用可能ですが、現役就労世代や社会復帰を目指す患者のニーズに添えておらず、問題となっております。

保険診療打ち切りとなった片麻痺患者の受け皿となっているのが、自費診療リハビリ施設です。社会的ニーズは増えている一方、保険診療期間外となった患者に対する集中的個別リハビリの効果は、①病院での実施が困難、②これまで自費診療リハビリ施設が検証を行っていない、という理由により示されていません。保険診療期間終了後の介入効果を示せば、患者本人の希望となるだけでなく、病院においてもリハビリ継続を望む退院患者に対して、エビデンスに基づいた自費診療リハビリという選択肢の提案が可能になると考え応募に至りました。

この度の肥後医育振興会医学研究助成を励みとし、熊本から研究成果を発信できるよう精進して参ります。最後に、選考委員の先生方、並びに肥後医育振興会の支援者・関係者の方々に御礼申し上げます。

## 膵がんにおける腫瘍内不均一性と治療抵抗性の解明

熊本大学大学院生命科学研究部 博士  
課程2年 がん生物学講座 山崎 昌哉



この度は、肥後医育振興会医学研究助成金ならびに学術奨励賞を賜り、心より感謝申し上げます。また、選考委員の先生方や関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は現在、熊本大学大学院がん生物学講座の大学院生として、がんの研究を進めております。近年、がんの腫瘍内不均一性と進展や治療抵抗性との関係が注目されておりますが、私は製薬会社に所属していた時から一貫して、がんを少し遠くから眺め、その社会性を崩すことががんを撲滅する切り口になるのではないかと考えております。熊本大学に所属してからは、当研究室で注目する受容体型チロシンキナーゼROR1を発現する細胞が、がん組織の親玉となり、原発巣の拡大だけでなく、薬剤耐性や転移といったがんの進展においても、大きな意味を持つことを少しずつ明らかにしつつあります。

本助成金ならびに奨励賞を励みに、さらに腫瘍内不均一性の理解を進め、いつか人類の健康に貢献する一端となれるよう、日々研究に邁進して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、関係者の先生方にはよろしくお願い申し上げます。

## エストロゲン受容体陽性HER2陰性原発乳癌の予後に関連のある遺伝子発現の検討

熊本大学病院 乳腺・内分泌外科 医員 後藤 理沙



この度は肥後医育振興会医学研究助成金を賜りまして、誠にありがとうございます。また、選考委員の先生方や関係者の皆様に深く御礼を申し上げます。

私は現在、熊本大学病院の乳腺・内分泌外科に所属し、臨床医として乳腺疾患や内分泌疾患の臨床を行いながら、乳癌の内分泌治療を中心とした研究に取り組んでいます。ホルモン受容体陽性乳癌は乳癌全体の約7割を占める最も多いサブタイプであり、術後の標準療法は5年ないしは10年の内分泌療法です。当教室での先行研究において、術前内分泌療法と関連のある遺伝子を抽出しており、今回はそれらの遺伝子発現と予後との関係について検討を行いました。そしてこの研究成果を携えて、2019年12月にはアメリカで開催されたサンアントニオ乳癌シンポジウムにて発表を行いました。今後も引き続き研究を発展させていきたいと考えております。

本助成金の受賞を励みに、今後多くの研究成果をあげられるよう、これからも日々努力をしてまいりたいと考えております。この度は本当にありがとうございました。